

抄 録

結核専門雑誌

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose Band 91. Heft 5. 1938.

肺臓ノ虚脱療法時ニ於ケル肺ノ機能試験ニ就テ
Gustav Petzold (Hornf):—

Ergebnisse der Lungenfunktionsprüfung auf dem
Gebiete der Kollapstherapie.

片側人工氣胸ヲ行フ時ハ勿論、兩側ノ人工氣胸ヲナス前後ニ於テ、Knipping 氏ノ基礎新陳代謝測定法ニヨツテ測定スルニ、酸素ノ消費量ハ、氣胸後著シク増ス。

此ノ單位時間内ニ呼吸スル分量ノ増加ノ原因ハ、一ツハ血液中ニ氣胸ノ爲メ乳酸ノ成生が増加シテ、之ガ呼吸中樞ヲ刺戟スル爲メアルガ、最モ大イナル素因ハ、單位時間ニ心臟ノ働キニヨツテ送り出サレル血液量ノ増加ニヨル爲ガ多イ。

血中酸素缺乏症ヤ、又血中ニ乳酸・「アルデヒド」・「アルコール」及ビ其他ノ有機性酸ノ生産過剰ニヨル化學的變化ニ就テハ、既ニ Knipping, Zimmermann 其他諸氏ニヨツテ明カニサレタ所テアル。

一般ニ肺結核患者ノ呼吸器ハ多少ノ機能障礙ガアツテ、呼吸ガ防ゲラレテ居ル故ニ、肺胞内ニハ充分ノ空氣ガ這入ツテ居ラヌ爲、此ノ部分ノ酸素ノ張力ハ減ジテ居ル、併シ氣胸ノ爲メ漸次高クナル。

即チ血中ニ生ズル乳酸ガ呼吸中樞ヲ刺戟スル爲メ、末梢肺動脈ノ血液循環ガヨクナリ、此ノ爲メ深呼吸ヲナス、其ノ結果肺胞内ノ酸素ノ密度が高マリ、酸素ノ吸収ガ良クナルモノナラン。

(東京市療 三神抄)

「コレステリン」及ビ中性脂肪ノ實驗的結核ノ經過
ニ及ボス影響ニ就テ:—

E. Rix und O. Schedtler (Marburg):—

Der Einfluß von Cholesterin und Neutralfetten auf
den Ablauf der experimentellen Tuberkulose.

著者ノ家兔及ビ「モルモット」ニ就テ實驗シテ、次ノ様ナ結果ヲ報告シテ居ル。即チ亞麻仁油及ビ亞麻仁

油ニ「コレステリン」ヲ添加シタ食料ヲ用ヒテ是等ノ動物ヲ養ヒタルニ、一律ニハ非ルモ、大多數ニ於テ結核ハ悪化シタ。故ニ亞麻仁油ノミナラズ「コレステリン」モ亦結核ニハ不向ト考ヘラレル。

此ノ亞麻仁油ニテ飼育スル事ガ良クナイト云フ事ガ、脂肪ヲ多ク與ヘル事ノ惡イ事ヲ何處迄裏書キスルカハ尙確カナラサルモ、亞麻仁油ハ下級獨逸人が多量ニ用フル故ニ國民保險上重要デアアル。次ニ此ノ惡イ結果ヲ來ス原因ノ何物カニ就テハ、先輩モ云フテ居ル様ニ血液中ノ陰「イオン」量、特ニ「カリウム」含有料ノ動搖スル爲ト考ヘラレル、殊ニ「コレステリン」ヲ添加シテ、益々血液中ノ脂肪量ニ「コレステリン」含有量ハ高マリ惡イ結果ヲ來ス爲ナラン。

(東京市療 三神抄)

治癒シ且ツ石灰化セル肺結核病竈ニ授乳ノ及ボス
影響ニ就テ

Ludwig Vajda (Ungarn):—

Über die Wirkung der Lactation auf geheilte,
verkalkte Lungenherde (Lungenprozesse).

Kehrer's ハ妊婦ニアリテハ血中「カルチウム」含有量ハ平常ヨリモ低下スルト云フ、彼ノ説ニ從ヘバ、血中「カルチウム」含有量ハ普通 10.18mg% ナルモ、妊娠ノ末期ニハ 9.22—9.25mg% トナリ、授乳中ハ更ニ 8.96—9.29mg% ニ低下スルト云フ。

著者ノ實驗ニヨレバ炎衝ガ崩潰ガ周圍ニ始マツタ時ハ、假令其ノ個所ガ石灰化シテ居テモ、遂ニハ其ノ石灰ガ吸収サレ爲メ永久又ハ一時的ニ石灰缺乏ヲ來ス。之ト同様ニ肺結核ガ非活動性トナリテ石灰化シタ病竈ヲ持つ婦人テ授乳ノ爲メ活動性ニ進行性ニナツテ、開放性ニ迄悪化シタノ時々見ル。

此ノ石灰化セル病竈ガ授乳中ニ石灰缺乏ヲ來シ再ビ發病スル原因ニ就テハ二ツノ條件ガ考ヘラレル、即チ其ノ第一ハ體質ニ各個人差ハアレド、授乳ノ爲メ新陳

代謝カ一方ニ偏シ、母乳ヲ作ル爲、又ハ母體ヲ平常ニ保持センガ爲ニ多量ノ「カルチウム」ヲ必要トシ、之ガ結核菌ノ發育ニ好都合トナルナリ、第二ハ第一ノ條件ト關係ハアレド結核菌ノ繁殖ノ爲血液中ノ「カルチウム」量ノ平衡状態ガ破レ爲ニ石灰病ニモ溶解サレルト云フ考ヘナリ。(東京市療 三神抄)

肺結核患者ノ「カルルス」泉飲用療法

Otto Halir und Emil Stransky, Karlsbad u. Marienbad:—

Lungentuberkulose und Karlsbader Trinkkur.

著者ハ多數ノ種々ノ型ノ肺結核患者ニ「カルルス」泉ヲ飲用セシメテ其ノ效果ヲ見タリニ、單ナル肺結核ニ非ズシテ糖尿病腎臟等ヲ併發シテ居ル患者ニハ宜シカラザルモ、其他ニハ大體良イ結果ヲ得タ。

殊ニ Westergreen 氏赤血球沈降速度ハ殆ンド凡テノ例ニ於テ良イ成績ヲ得タ。赤血球數ノ増加ニモ、白血球像モ大體良イ。

血清中ノ Ca, mg, K 量等ハ殆ンド凡テノ例ニ於テ増加シ、體重其他一般症狀モ宜シ。

(東京市療 三神抄)

Groer 氏反應トアレルギー 殊ニ成人結核ニ就テ J. E. Szanto, Z. Bernath und O. Riedl (Budakeszi):— Allergiestudien mit der Groerschen Reaktion im besonderen Bezug auf die Tuberkulose Erwachsener.

Groer 氏反應即チ舊 ツバルクリンヲ生理的食鹽水ニテ $1/5000$ ト $1/50000$ ニ稀釋セルモノヲ、 $1/10$ cc宛左右ノ肩胛骨間ニ對稱的ニ皮内注射シテ、21時間後ノ皮膚ノ敏感度ヲ見テ、其ノ大イサヲ數學的ニ計算スルナリ。即チ之ヲ行フ事ニヨリ、吾人ハ生物學的代償機能亡失ノ徵候ヲ知り、次ニ浸出性・浸潤性局所反應ヲ見ル事ヲ得ル、而シテ最初反應少ナク後ニ強クナルハ、生物學的ニ良イ條件ニテ像後ハ良イ。

(東京市療 三神抄)

結核遺傳ノ疑議ニ就テ

Kurt Klare-Scheidegg:—

Zur Frage der tuberkulösen Belastung.

著者ハ二家族ニ就テ觀察シタリ、即チ二人ノ少女ハ共ニ母親側ハ結核ニ關シ濃厚ニテ、何レモ結核ニテ死亡スルニ反シ父親側ニハ殆ンド夫ヲ認メス者ヲ檢索スルニ、娘ノ外見ガ母親ニ似テ來ルト結核ハ發病スルカ、又ハ結核ガ惡化スル故遺傳ヲ認メルト云フ。

(東京市療 三神抄)

原發性氣管枝癌ト肺結核ノ併發ニ就テ

Alfred Bergmann:—

Über kombiniertes Auftreten von primären Bronchialcarcinom und Lungentuberkulose.

肺結核ト肺臟癌ノ鑑別診斷ハ比較的困難ナモノデアリ。取り分ケ Röntgen ナクシテハ全ク不明ノ事ガ多イ、臨牀上所見ニ於テ兩者間ニ何等特異ノ點ハナイ。著者ノ見タ例テハ體重ノ急激ナ減少ガ診斷ノ端緒トナツタ。之ハ慢性ノ活動性肺結核ガ、外傷ニヨル動機テ肺臟癌ニナツタモノテ、解剖ニヨルト氣管枝粘膜炎ノ長皮細胞ノ異常發育ニヨルモノデアツタ。

(東京市療 三神抄)

肺結核ト肺腫瘍ノ鑑別診斷ニ就テ

Hermann Grebe (Schömburg):—

Beitrag zur Differentialdiagnose zwischen Lungentuberkulose und Lungentumor.

著者ハ轉位性ノモノト原發性ノモノト人ノ肺臟癌ヲ見タカ何レモ診斷ハ困難デアツタ。

第 1 例ハ臨牀上ニ於テモ亦 Röntgen 檢査テモ最後迄 Hodgkin 氏病トヨク似テ居タ。他ノ 2 例ハ最初ハ肺結核ト誤診シテ居タガ、死後初メテ肺臟癌ト確定シタ。

其ノ内第 2 例ハ死亡スル迄左肺ノ膨脹不全ヲ伴フタ纖維性氣管枝加答兒ニ似テ居タ。死後解剖シテ左ノ同側ノ甲状腺腫ノ轉位ナル事ヲ知ツタ。

第 3 例ハ Röntgen ニテ右肺葉間ニ浸出物アリ、肋膜腔穿刺シテ出血性粘稠ノ浸出液ヲ得タ、其ノ中ニ癌腫細胞ヲ發見シ、解剖鏡檢シテ原發性肺臟癌ナル事ヲ知ツタ。

(東京市療 三神抄)

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose. Bd. 91. Heft 6. 1938.

結核性紅斑ト成人結核症トノ關係

Ernst Zweifel: Die Beziehung des Erythema Nodosum zur Tuberkulose beim Erwachsenen.

コノ問題ニ關スル文献ヲ紹介シタ後、著者ノ經驗ヲ次

ノ如ク述ベテラル。

著者ハ 49 例(成人 48 例、小兒 1 例)ノ結核性紅斑ヲ檢査シタ。ソノ内「レ」線檢査ヲナセルモノ 43 例デアリ。コノ内 22 例(51%)ニ結核性病變ヲ認メタガ、是

等ハ全部結核性第二期浸潤ノモノデアツタ。
次ノ10例(23%)ハ結核性病變僅微ノモノカ、或ハ單
ニ疑ハシキモノデアツタ。其他ノ11例(26%)ハ「レ」
線像ニ結核性病變ヲ認メナイモノデアツタ。

コノ最後ノ2群ニ於テハ、「レ」線撮影ノ時期ガ早キカ
又ハ遅キニ過ギタノデハナカウツカウト思ハレル。

尙同年中ニ著者等ノ觀察シタ6例(Löffler 記載)及小
兒ノ1例ヲ之ニ加ヘルト、「レ」線検査ヲセル結節性紅
斑50例ノ中、肺結核病竈ヲ有スルモノ28(56%)トナ
ル。

結節性紅斑33例中26例(79%)ニ「ツ」反應陽性ヲ見
タノハ、著者等ノ國民平均ヨリモ高率デアル。「ツ」反
應陰性7例中、6例ニ於テ「レ」線像ニ結核性變化ヲ
認メタコトハ興味深イコトデアル。内1例ハ Boeck
氏病ト見ル可キモノデアル。是等ハ Allergisch-hyper-
ergisches Stadium ガ極メテ短期間デアツタ例ト見做
ス可キデアラウ。

之ニヨリ、結節性紅斑ハ成人ニ於テモ、主トシテ結
核性ノモノデアルト云ヒ得ルデアル。

(東京市療 中野抄)

氣胸瓦斯吸收ニ及ボス酸素ノ影響ニ就イテ

Gerhard Perschman u. Friedrich Momsen: Über die
Wirkung des Sauerstoffs auf die Resorption der
Pneumothoraxgase.

氣胸瓦斯ハ、窒素含量少キ瓦斯、從ツテ又酸素ヲ吸入
スル時ハ早ク吸收サレルモノデアル。シカン中性瓦
斯ヲ吸入スル時ハ、之ト反對ノ結果トナル。コレハ
Anthony, Schwarz u. Slotty ノ理論デアル。

氣胸瓦斯ノ吸收ニ及ボス酸素吸入ノ影響ハ、他ノ研究
者ニヨリテモ、家兎、犬及人間ニ於テ實驗サレタ。

Campell ハ皮下ノ氣胞ガ酸素ノ吸入ニヨリ早ク吸收
サレルヲ見タ。

著者ハコノ問題ニ關シ更ニ詳細ナル知見ヲ得ルガ爲
ニ實驗ヲ行ツタ。之ノ總括ヲ次ニ述ベル。

(1) 家兎ニ高濃度ノ酸素ヲ吸入セシムル時、其氣胸ノ
吸收ハ4—5倍ニ早マル。

(2) 氣胸空氣ト吸入空氣トノ間ノ瓦斯交換ハ、間接ニ
組織ト血行トノ間ヲ行ハレル。而シテ窒素含有量ノ
差大ナル程、吸收モ亦早イ。酸素濃度低キ時ハ、當
然吸收ハ遅レル。血液ニ於ケル吸收係數ノ大ナル中
性瓦斯ハ既存ノ氣胸ヲ急激ニ増大スル。故ニ氣胸患
者ニ亞酸化窒素ノ麻醉ヲ行ツテハナラナイ。

(東京市療 中野抄)

老人ノ脾臟結核症

Alfred Arnstein: Die Milztuberkulose im Greisenal-
ter.

脾臟ハ全身結核症ニ於テ屢々侵サレルモノデアツテ、
Lubarsch ニヨレバ、年齢ヲ問ハズ總テノ全身結核症
ノ100%ニ脾臟ニ結核性病變ヲ認ムルト云フ。老年者
ニ於テハ、著者ノ經驗デハ、全身粟粒結核ニ於テス
ラ臨牀上脾腫ノ認メラル、場合ハ例外デアルト云ツ
テモヨイ位ニ少イデアル。斯ル場合ノ脾臟結核症
ハ、他ノ場所ニ限局シタ結核症ト Analogie ノ關係ニ
見テ、„Blande“ Milztuberkulose ト稱シテモヨイノ
デアル。之ト反對ニ、„Isolierte“ Milztuberkulose

以前“Primär”ナル語ガ用ヒラレタガコレハ誤リ
デアルニシロ、或ハ結核多發性ノ一現象タル
所謂„Tuberkulöse Splenomegalie“デアルニシロ、
兎ニ角、脾腫トイフモノガ主症狀ヲナス所ノ比較的稀
ナ場合ガ存在スル。

Isolierte Milztuberkulose トハ、Lubarsch ニ從ヘバ、
實際ニ於テ結核性病變ガ脾臟丈ニアツテ、他ノ何所ニ
モ無キ場合ヲ云フデアル。氏ニヨレバ、正確ニ診
斷サレタ例ハ文獻上7例ヲ見ルニ過ギナイ。

Primäre Milztuberkulose 及 Tuberkulöse Splenome-
galie ハ既述ノ如ク稀ナモノデアル。大多數ノ文獻ニ
ヨレバ、年齢及性ニ無關係デアル。唯 Hirschfeld 丈
ガ40代ニ一番多イラシイト云ツテラル。Winternitz
ガ1912年ニ集メタ51例中、60歳以上ガ5例アツタ。
Esser ノ非定型的脾臟結核症21例ニ就イテノ研究
中、自分ヲ觀タノハ7例テ、内60歳以上ガ2例デア
ツタ。其他ニ尙35例ヲ著者ハ文獻ヨリ集メタガ、其
内60歳以上ガ6例アツタ。著者自身ヲ觀タノ例ハ男2
例(53歳及66歳)女3例(71歳、77歳及79歳)デア
ル。即チ著者ノ合込ニ集メタモノハ全部テ112例デア
ルガ、コノ内60歳以上ノモノハ17例(男9例女8例)
デアル。

著者ハ自身觀察シタ1例(5例ノ中ノ1例ハ老年者テ
ハナイ)ト文獻上ニ得タ13例トニ就イテ老人ノ脾臟結
核症及結核性巨大脾(Tuberkulöse Splenomegalie)ニ
關シ述ベテ來タガ、之ヲ總括スルト次ノ通りデアル。
老人ノ脾臟結核症及結核性巨大脾ノ診斷ハ容易トハ
云ヘナイ。第一ノ症候ハ脾腫デアルガ、時トシテ合
併症ノ爲ニ發見サレナイコトモアル。老人ニハ脾臟

以外ノ場所ニ血行性ノ結核病竈ヲ有スルモノガ屢々アル。斯ル場合、脾腫ノ他ニ肝臓及淋巴腺ノ腫脹、又ハ他臓器ノ結核性疾患ノ存スルコトガアリ、是等ヨリ脾臓結核症ヲ暗示セラル、コトガアル。血液所見トシテハ、特異的ト云フ程デモナイガ、時ニ赤血球增多症ヲ、又屢々輕度ノ白血球増加ヲ來スコトガアル。赤血球沈降速度ノ増加ハ僅少デアアルガ、之ハ時ニ鑑別診斷ニ役立つコトガアル。舊「ツ」反應検査モ意味ガアル。「レ」線像ニ見ラレル石灰竈ハ、Lubarsch 其他ノ人々ノ觀察ヲ參考トシテ見ルニ、結核性ノモノトハ考ヘラレナイ。老人脾臓結核症ノ治療ニ「レ」線治療ヲ試ミルノモ良イ。(東京市療 中野抄)

大空洞治療ノ問題ニ關スル知見補遺

Kaj Bönsdorff: Beitrag zur Frage der Behandlung von grossen Kaverne.

Kremer ハ、氣胸療法ハ小ナル新空洞ニハ有效デアアルガ、林檎大以上ノ古イ大空洞ニハ無効デアツテ、斯ル場合ハ氣胸ヲ何時マデモ繼續スルカ、又ハ油胸療法ヲ行フカ、或ハ寧ろ最初カラ胸廓整形術ヲ施ス方ガヨイト云ツテアル。同様ニ Curschmann モ、大空洞ノ氣胸テハ肺ノ再擴張ガ不能トナルカ、或ハ永久一氣胸ヲ續ケザラ得ナイ状態ニナルノデアツテ、結局氣胸療法ニヨツテハ大空洞ノ治癒ハ望メナイモノデアルト云ツテアル。尙氣胸ニ關スル多クノ文獻ヲ見ルニ、獨逸テハ氣胸療法ノ效果ヲ無條件ニハ認メテキナイヤウデアアル。之ハ又 Karwowski カ述ベタボーランド側ノ意見トモ一致シテアル。即チ大空洞ニ對スル長期間ノ氣胸療法、或ハ一般ニ大空洞ヲ氣胸ヲ以ツテ治療スルトイフコトニハ反對デアアル。空洞ニ氣胸療法ガ奏功スルノハ、空洞ノ周圍ニ健全ナ組織廣ク存在スル場合ニ限ルノデアアル。コノ問題ニ關スル佛蘭西ノ文獻ハ信用出來ル。Pierre Pruvost(1935)ハ氣胸ト燒灼トニヨツテ巨大空洞ヲ治癒サセタ 1 例ヲ報告シテアル。氏ハ其他 10 例ノ大空洞ヲ有スル患者ニ氣胸療法ヲ行ツテ良好ノ成績ヲ得タト云ツテアル。米國テモ人工氣胸ハ反對サレテヲラナイ。即チ John Alexander(1937)ナドモ、大空洞ニ氣胸ガ有效デアアルコトヲ述ベテアル。Mille(1936)ハ 5×5 cm 以上ノモノヲ大空洞ト稱シタガ、著者ハ斯ク數字的ニ限定スルコトヲ避ケ、1 肺葉ノ主要部分ヲ占ムル如キ空洞ヲ大空洞ト云フコトニシタ。著者ハ自分ノ扱ツタ巨大空洞ヲ有スル肺結核症 35ノ治療成績ヲ述ベテアル。

全例ヲ氣胸療法、胸廓整形術及非虛脫療法ノ 3 組ニ分チテ觀察シタ。コノ結果ヲ總括スルト次ノ如クナル。巨大空洞ヲ有スル肺結核症 35 例中

氣胸療法 11 例。内 6 例治癒、5 例死亡。

胸廓整形術 16 例。内 7 例治癒、9 例死亡又ハ無効。

全身状態不良ノタメ虚脱療法不能ナリシ 8 例ハ全部死亡。3 例ハ氣胸療法中肺破裂及膿胸併發。

肺ノ再擴張ニ際シテ不良ノ結果ハ來ナイ。

氣胸療法可能ニシテ且ツ全部ノ癒著ガ Thoracoskopie ト Jacobäus ノ燒灼法トニヨツテ除去スルコトガ出來ル場合ニハ、氣胸療法ノ效果ハ少クトモ胸廓整形術ノ夫ト同様ニ良好デアアル。

古イ大空洞ニハ氣胸療法ヲ行フ可カラズト云フ Kremer ノ主張ニハ反對デアアル。(東京市療 中野抄)

結核症ノ治療ニ關スル實驗的知見補遺(第三報)

金療法ヲ行ヘル家兔臟器ノ金沈著ニ就イテノ組織化學的検査

St. J. Leitner: Experimentelle Beiträge zur Goldbehandlung der Tuberkulose. III. Mitteilung.

Histochemische Untersuchungen über Goldablagerung in den Organen goldbehandelter Kaninchen.

體內ニ注入サレタ金ガ其先キドウナルカトイフ事ハ、金療法ノ行ハレ始メタ頃カラノ興味アル問題デアアル。最初 Möllgaard ニヨツテ提供セラレタ製劑 Sanocrysin ノ排泄ガ長時日ヲ要スルコトハ、總テノ研究者ニ認メラレテアル。著者ハ金ノ臟器沈著ニ關スル文獻ヲ多數ニ紹介シテアル。著者ハ 9 匹ノ家兔ニ金療法ヲ行ヒ、臟器沈著ノ金ヲ Borchart ヲヨル Histochemische Untersuchung 及 Hochfrequenzfunken-spektralanalyse ニヨツテ定量シタ。是等ノ家兔ハ長期間 Solganal B 水溶液ヲ治療(其内 4 匹ハ 3 ヶ月ノ實驗期間ヲ Oleosanocrysin テ治療)サレタモノデアアル。最初ハ靜脈注射ニヨツテ感染セシメ 次ニ氣管内ニ重感染セシメタ。解剖所見ハ人間ノ結核性早期浸潤ハ同様ノ變化ヲ示シテヲツタ。コノ検査ノ結果ヲ次ニ總括シテ述ベル。

組織化學的検査ニ於テハ、肝臓殊ニクッペル氏星芒細胞ニ高度ニ金沈著ヲ見タ。シカシ實質細胞、腎臓、殊ニ Tubuli contortii I 及 Hauptstück ニモ多量ノ沈著ガアツタ。(Glomerulus ハ正常)。脾臓ニモ相當ノ沈著ガアリ、又骨髓ニモ 1 例ニ於テハ輕度ノ沈著ガアツタ。肺ノ結核病竈、コト一上皮様細胞及 Zirkum-

focale Entzündung ノ細胞ニ時々沈着が見ラレタ。シカシ健全ノ肺胞上皮細胞ニ於ケル沈着ハ大抵極ク僅カデアツタ。實質細胞ノ著明ナ金沈着ハ、恐ラク水溶性ノ金製劑ヲ用ヒタ場合カ、或ハ靜脈感染後ホダ結核症状發現セザル時期ニ金療法ヲ始メタ場合デアラウ。Hochfrequenzfunken-Spektralanalyse デハ肝臓ニ於テ最も高度ニ、次ニ腎臓ト脾臓ニ、而シテ肺ニ於テハ最も少ク沈着シテラツタ。一般ニ Spektralanalyse ノ結果ト histochemisch ノ夫トハヨク一致シテラル。注目ス可キハ、8ヶ月以來金療法ヲ中止シテラル一動物ノ臓器ニ、多量ノ金が含まレテラツタコトデアル。コノ事實ハ、一度沈着シタ金ノ排泄ニハ長時日ヲ要スルコトヲ證明スルモノデアル。故ニ金療法ヲ反復施行スル場合ニハ充分注意シナクテハナラナイ。結核組織内皮細胞が著明ニ金ヲ吸着スルトイフコトハ、血清ノ「オプソニン」機能亢進ニ關スル昔ノ實驗ノ結果トヨク一致スルモノデアツテ、金ニヨル Mesenchym-aktivierung ノ意義ノ大ナルヲ示スモノデアル。金療法ノ主タル效力ハ、RES ノ Aktivierung 及ソレニ由ツテ來ル個體防禦力ノ増進ニアルノデアル。其他ノ效力ノ要素ニ就イテハ、前報告ニ於テ述ベタ通りデアル。

(東京市療 中野抄)

結核症ノ金療法ニ關スル實驗の知見補遺(第四報)
結核症ノ金療法ニ於ケル特異的及ビ非特異的血液検査

St. J. Leitner: Beiträge zur Goldbehandlung der

Tuberkulose. IV. Mitteilung.

Spezifische und unspezifische Blutuntersuchungen bei Goldbehandlung der Tuberkulose.

コノ問題ニ關シ、著者が患者ニ就キ検査セル結果ヲ述ベル。

Meinicke 氏結核反應ハ、金療法ニ於テ特殊ナ變化ヲ示サナイ。

赤血球像ハ經過ヲ見ル上ニキイシタ役ニハ立タナイ。シカシ貧血が前カラアル患者デハ、コノ貧血が癒ツタ場合治療効果ガアツタト云ヘル。

白血球像ハ最も價値アル方法デアツテ、金療法ノ效果ノ如何ヲ見ルノニ適當シテラル。即チ白血球像ハ結核症ノ經過ヲ Schilling 氏ノ相ノ變化ヲ以テ示シ、又金ニ對スル Überempfindlichkeit ノ結果タル骨髓障障害ノ有無ヲ示スモノデアル。特ニ「エオジン」嗜好細胞ノ増加ハ、骨髓障障害ヲ察知スル最も重要ナル指標デアル。之ノ著明ナル増加ニ於テハ金療法ヲ中止ス可キデアル。

血液沈降速度モ亦白血球像ト同様、經過判定上重要ナル方法デアル。

上述ノ如ク、白血球像及血液沈降速度ノ兩者ハ價値アル診斷方法デアルが、1回丈ノ検査デハ何モ云ヘナイ。連續検査ヲ行フ場合、得ル所大デアル。良好ナル經過ニ於テハ3—4週間毎ノ検査ヲ充分デアルが、不良ノ經過ヲトル場合ニハ、更に検査ノ回數ヲ増スコトが必要デアル。(東京市療 中野抄)

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose. Bd. 92. Heft 1.

1) 氣管枝撮影ニ就テ

H. E. Meyer u. O. H. Rolf: Ergebnisse bronchographischer Untersuchungen.

著者等ハ182例ノ Bronchographie ニヨリ觀察セル結果ニ就テ症例ヲ擧ゲテ意見ヲ述ベテキル。

著者等が使用シタ方法ハ、聲門カラ入ル法(Transglottische Methode)即チ咽頭ノ知覺ヲ脱失サセタ後、消息管ヲ氣管ニ入レ、コレヲ通シテ、40% Jodipin ヲ約15—20 cc. 30°C(必要ニ應ジテ35cc)ヲ徐々ニ入レル方法ヲ取ツテ居リ、僅カナ量ヲ足リル利點ヲ擧ゲテキル。

結果トシテ、色々ノ利點ノ内、結核性ノ肺疾患(主トシテ硬化性6例)ニモ好影響ガアツタト。又原因不明ノ咯血ガ、他ノ診斷方法デハ不可能デアツタニモ拘

ラズ、Bronchographie ニヨツテ靜脈腫狀氣管枝擴張症ガ原因シテキル事ヲ確カメタ例ヲ擧ゲテ居ル。禁忌トシテハ代償機能消失セル心臓、腎疾患、傳染病、甲狀腺中毒症等デアル。

著者等ノ經驗ニヨレバ60%迄診斷ハ正確デアツテ、31%ハ他ノ疾病デアツタ。患者ノ病歴ヲ詳細ニ取ル事ニヨツテ、最初一起ル定型ノ誤ヘト、疾病ヲ發見シタ時トノ間ニ平均2 3/4年ノ經過ガアツテ、ソノ間、患者ハ屢々結核症ノ診斷ノモトニ治療ヲ受ケテキル。若シ醫師ノ大多數ガ、氣管枝擴張症ガ稀ナ疾病デアルト云フ先入觀念ニ提ハレズ、且ツ疑シイ例ニ就テ Bronchographie ヲ行ツタナラバ誤診ハ少クナルデアラウト注意シテキル。(東京市療 中野抄)

2) 肺結核症ト妊娠

H. Staubt u. U. Schaare: Lungentuberkulose und Schwangerschaft.

著者等ハ妊娠ト結核症トノ原因ノ關係ノ問題ニ就テ觀察セル 14 症例ヲ報告シ、9 例ニ就テ妊娠ト致命的増悪トノ時間ノ關係ヲ述ベテキル。ソノ内、分娩後 8 日カラ 3 $\frac{1}{2}$ ヶ月テ粟粒結核症又ハ結核性腦膜炎テ死亡セル 3 例ノ血行性播種型ヲ見テキル。

其ノ外ニ分娩後 2 乃至 6 ヶ月以内ニ致命的ニ経過セル浸潤型ガ 3 例アツテ、ソノ内 1 例ハ妊娠 8 ヶ月非常ナ喀血ガアツタト。

他ノ 3 例ハ妊娠ヲ中絶シタニモ拘ラズ浸潤型テ死亡シテキル。

又第 3 回目ノ分娩後結核性腦膜炎ヲ起シタ例ガアルガ、之ハ第 2 回目分娩後 7 日目ニ臨牀的ニ腦椎穿刺ニ依ツテ腦膜炎ナル事ヲ確カメ、6 ヶ月テ治癒シタ例ヲ嚔ケテ注意ヲ促シテキル。

尙一例、3 回ノ妊娠テ、其ノ度毎ニ結核性浸潤(喀痰中菌陽性)ヲ、ソレゾレ肺ノ別ノ分野ニ認め、浸潤ハ每常妊娠 2 ヶ月カラ 3 ヶ月目ニ見ラレタト。

比較例トシテ妊娠ニヨツテ影響ヲ受ケナイ慢性粟粒結核症ノ 1 例及ビ正常分娩後治癒シタ Infiltratschübノ 3 例ヲ嚔ケテキル。他ノ例ハ、肺病變ノ経過ハ妊娠ニヨツテ影響サレナイ様ニ見エタト。

多クノ場合ニ Schübノ致命的経過ハ、自然或ハ人工流産ニヨツテ阻止スル事ハ出来ナイト云ツテキル。

(東京市療 平野抄)

3) 結核ニ對スル新化學療法薬「チモフォーゲン」ニヨル臨牀的經驗ニ就テ

H. Hashimoto: Über die klinischen Erfahrungen mit einem neuen chemotherapeutischen Mittel „Thymophogen“ (Mono-4-chlorthymolphosphorsaures Natrium) für Tuberkulose.

著者ハ肺結核症ニ對シテ、化學療法ノ新薬チモフォーゲンニヨル臨牀經驗ヲ報告シテキル。即チ第 1 及第 2 期ノ場合ニハ一般ニ著シイ影響ガアリ、斯ル場合ハ全ク治癒スルカ良好トナリ、重症ナル第 3 期ノ場合ニ於ケル 2、3 ノ例テハ好影響ガアツタ事ヲ觀察シテキル。

チモフォーゲンノ主ナ作用ハ、體温ヲ徐々ニ下降サセ、食欲ヲ増進シ、體重ヲ増加シ、且他覺的症狀ヲ少クスル、即チ赤沈ガ良クナリ、「レ」線陰影ガ良クナル事デアルト。

腎臟結核ノ場合ニハ本劑注射後、尿中ノ結核菌ノ減少或ハ消失ヲ來シ、他ノ症狀モ良好トナルヲ見テキル。

結核性カリエスノ場合ニハ病竈カラ出ル膿ヲ減少シ、咽喉頭結核、痔瘻及他ノ結核性創傷ノ如キ場合ニ、水様チモフォーゲン溶液テ外部カラノ治療ニヨリ好影響ヲ見タト。

著者ハ臨牀經驗カラ、チモフォーゲンヲ肺ソノ他ノ結核ニ對スル特種ナ化學療法薬トシテキル。

(東京市療 平野抄)

4) 氣管枝性喘息及他ノ原因ニヨル呼吸困難時ノ Insulinschock ヲ持ツテスル治療法ニ就テ

A. Hoffmann: Über die Behandlung des Asthoma bronchiale und dyspnoischer Zustände anderer Genese mit Insulinschocks.

著者ハ Hyperglykämische Shock ヲ起サセル適當量ハ 30—50 Kl. E. (臨牀單位)デアアル事ニヨツテ、氣管枝性喘息ノ發作ヲ妨ゲル效果ガアル事ヲ確メタ。ソレハ Insulinschock ヲ反復スル事ニヨツテ、長時間ノ快癒状態ガ得ラレルト。且ツ單ニ眞性ノ氣管枝性喘息ノ呼吸困難バカリテナク、肺氣腫ノ場合ノ呼吸困難ニモ Insulinschock ハヨリ影響ヲ與ヘル。色々ノ、主ニ結核症ノ血行性ニ起ツタ型ノ場合ニ於ケル呼吸困難ニモ亦ヨイ、コノ治療ニヨツテ結核性ノ變化ニ惡影響ハ決シテ無ク、且屢々治癒傾向ガ明カニ確認サレル事ヲ重要視シテキル。

氣管枝性喘息中、屢々起ル「非特種性浸潤」モ、インシュリン療法中ニ消失シ、同時ニ呼吸時ノ苦痛モナクナル。

コノインシュリン作用ニ關スル證明トシテハ、呼吸困難ノ際、就中反應的ニアドレナリンヲ出ス調節ニ對シテ、早期ニ作用サセルタメデアルトシテキル。

Insulinschock ノ反復ニヨツテ、ソゴトニ患者 1、就中アドレナリン系統ノ調節ヲ練習サセテ、併セテ全病症ヲ長期間良好ナラシメル事ハ、恐ラク可能デアラウト述ベテキル。

(東京市療 平野抄)

5) 開放性結核發見ノ場合ノ Schramek 及 Hegedüs ニヨル喉頭塗抹培養ノ意義ニ就テ

F. Böhn u. A. Ekstein: Über die Bedeutung der Lungenabstrichkultur nach Schramek und Hegedüs bei der Auffindung offener Lungentuberkulosen.

著者等ハ Schramek-Hegedüs 氏ノ方法ニヨル喉頭塗

抹培養試験ノ經驗ヲ述べ、本法ハ技術ガ簡單テ、安
價テ、且ツ效果的ナ培養法デアルト推奨シテキル。

(東京市療 平野抄)

6) 喀痰ニ汚染セラレタル洗濯物ノ消毒

E. Hailer: Die Desinfektion mit Auswurf infizierter

石 炭 酸	3 %テ2 時間内	2 %テ4 時間内	1 %テ12時間内
水中ノ「クレゾール」	2 %テ2 時間内	1 %テ4 時間内	0.5%テ12時間内
石鹼水中ノ「クレゾール」	2 %テ2 時間内	1 %テ4 時間内	0.5%テ12時間内
水中ノ鹽化「クレゾール」	0.4%テ4 時間内	0.4%テ4 時間内	0.2%テ12時間内
石鹼水中ノ鹽化「クレゾール」	0.5%テ4 時間内	0.5%テ4 時間内	0.1%テ12時間内
Baktol, Sagrotan, Bifortol	3 %テ6 時間内	0.4%テ4 時間内	1.5%テ12時間内
水中ノ Formaldehyd	0.75%テ6 時間内	1 %テ4 時間内	0.5%テ12時間内
石鹼水中ノ Formaldehyd	0.75%テ4 時間内	0.75%テ4 時間内	0.5%テ12時間内
Rhodianwassestoffaäure	0.5%テ2 時間内	0.2%テ4 時間内	0.1%テ12時間内
Weidnerit	2 %テ4 時間内	2 %テ4 時間内	1 %テ12時間内
昇 汞	0.1%テ4 時間内	0.1%テ4 時間内	0.1%テ12時間内

テ其ノ消毒ノ目的ヲ達シ得ル。

尙羊毛類ハ次ノモノデアルト4 時間ノ處置テ充分テ
アル。

- 1.0% 水中又ハ石鹼水中ノ「クレゾール」
- 0.4% 水中鹽化「クレゾール」

Wäsche.

著者ハ藥品ニ依ル消毒ニ就テ研究シ、其ノ目的物ヲ喀
痰ニ汚染セラレタル洗濯物、特ニ「ハンカチーフ」ト
シタ。尙結核菌ノ生死ハ動物實驗ニ依ル。其ノ結論

ハ

1 % 石鹼水中ノ鹽化クレゾール	1 %テ12時間内
0.5%テ12時間内	0.5%テ12時間内
0.5%テ12時間内	0.5%テ12時間内
0.2%テ12時間内	0.2%テ12時間内
0.1%テ12時間内	0.1%テ12時間内
1.5%テ12時間内	1.5%テ12時間内
0.5%テ12時間内	0.5%テ12時間内
0.5%テ12時間内	0.5%テ12時間内
0.1%テ12時間内	0.1%テ12時間内
1 %テ12時間内	1 %テ12時間内
0.1%テ12時間内	0.1%テ12時間内

等テ目的ヲ達シ得ル。

是等ノ實驗ハ15—20°ノ室温テ行ハレタ。温度ガ低イ
ト作用ガ弱クナル、故ニ15°以下テ行ハナイ様ニス
ル。(東京市療 相澤抄)

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose. 92. Band. 4. Heft.

双生兒ノ結核ニ就テ、46 組ノ調査

E. Uehlinger und M. Künsch: Über Zwillingsuber-
kulose. Untersuchungen an 46 Paaren.

結核ト遺傳ノ問題ハ 1)統計的觀察、2)系圖ヲ辿ル
觀察、3)雙生兒ノ觀察ニ依ツテ爲サレテキルガ著者
ハ3)ノ方法ニ依ツタ。雙生兒ノ2人ノ結核ガ似テキ
ルカドウカ、外界ノ影響如何、雙生兒ノ決定(即一卵
性 E.Z.)カ2 卵性カ(性同ジ Z.Z.; 性異ナル P.Z.)等ノ
判断ハ Diehl Verschnerニ依ツタ。46 組(E.Z. 12組
Z.Z. 26組、P.Z. 8組)ニ就キ小兒期ノ状態家族關係、
感染時(多數ノ例テ「ツベルクリン」反應ヲ檢シ初感染
時ヲ見テキル。)發病時期、經過等出來ル丈詳細ニ述
ベテキル。

E.Z.	12組テハ	結核所見同ジキモノ	7組
		異ナルモノ	5組
Z.Z. P.E.	34組テハ	同ジキモノ	2組
		異ナルモノ	32組

此ノ關係ハ環境、就中結核菌ニ曝露サレテキルカドウ
カト云フ事ニ大ナル關係ガアルガ遺傳型異ルト同ジ

環境テモ感染ノ時期ガ數年以上距ツテキル。又感染
ハ同時テモ經過ガ異ナル。稀ニハ環境ガ異ツテキテ
モ結核所見全ク同ジ場合モアルガ、カ、ル場合著者ハ
「Z.Z. テモ時ニハ同ジ遺傳型ヲ持テ得ル」ト云ツテキ
ル。E.Z. テ結核所見異ル場合ハ多ク曝露ノ状態ガ異
ツキル。其他ノ環境ガ異ツタ場合ハ E.Z. ノミ結核所
見同ジテアル。

初感染ニ就テハ

	環境	曝 露	結核所見
E.Z.	5組 同ジ	共通又ハ不明	同ジ1組ハ初 感染處ノ場所 モ程度モ同ジ
Z.Z.	5組 同ジ	共通	異ル
P.Z.	7組 同ジ	不明	異ル
	4組 同ジ		2人共感染ハ シテキルガ感 染間ノ期間數 年以上

罹患ニ就テハ

遺傳型異ツタモノテハ環境モ曝露モ同ジ5 組中皆
片一方ノミ罹患シ他ノ人ハ感染ハ受ケテモ發病シナ

イ。環境が同一でも曝露不明の場合ハ結核所見ハ異なる。環境が異ツテモ結核所見が同ジ場合ハ遺傳型異ツタモノニハ見ラレナカッタ。遺傳型同ジモノデ一組アツタ。又遺傳型同ジテ結核所見異ツタ場合ハ其ノ片一方ノミガ長イ間曝露サレテキタ時デアル。遺傳型異ツテ結核所見同ジ場合ハ環境ヲ説明サレル場合が多い、然シ環境が同ジテモ大抵ハ結核所見異なる。以上ノ事ヨリ結核症ニハ特殊ノ遺傳質ノ存在ヲ是認セネバナラヌ。而シテコノ遺傳質ハ胸廓トカ肺ノ構造等ノ如キ外形的ノモノデハナイシ、結核罹患ニハ以上ノ遺傳因子ノ外補助因子ヲ認メテキル。即チ生理的ニハ年齢、好悪等、病的ニハ傳染病後又ハ榮養障碍等デアル。

(東京市療 馬場抄)

結核菌含有喀痰ノ附著シタ木材及ビ「リノリウム」面ノ消毒ニ就テ

E. Hailer: Die Desinfektion mit Auswurf infizierter Holz- und Linoleumflächen.

著者ハ先ニ衣服類ニ附著シタ喀痰ノ消毒ニ就テ藥劑ノ效果ヲ比較シタガ、此度ハ床、壁、家具等ニ附著シタ場合ヲ研究シタ、コノ爲木材小片(鉤ヲカケタモノ、「リノリウム」ヲ塗ツタモノ)ニ結核菌含有喀痰ヲ種々ノ厚サニ塗り濕ツタ儘或ハ乾燥後ニ消毒劑中ニ浸シ種々ノ時間後天竺鼠ヘ感染セシメ得ルヤ否ヲ檢シタ。喀痰ガ乾燥シテキル場合ヨリ消毒容易デアル。然シ只藥液ニ觸レシメル丈テハ不充分テ、豫メ藥液ニ浸シタ雑布等テ摩擦シ拭キ取ル事が必要デアル。水平面ノ床等テハ其後尙 2—4 時間藥液ニ觸レシメレバ

目的ヲ達シ得ルガ、壁ノ如キ縦ノ面テハ藥液ニ充分長ク觸レシメル事ハ出來ヌ。然シ飛散シ易キ塵埃等ヲ拭キ取ツテオク事ハ必要デアル。是等ノ藥劑トシテハ、3%石炭酸、1.5%「クレゾール」水溶液、5%「クレゾール」石鹼水、「アルカリゾール」、T.B. Bacillol, Sagrotan Baktol. 1%「フォルマリン」等デアル。昇汞ハ不適當デアル。「アルカリクレゾール」ハ用ヒラレルガ「ベンキ」ヤ色調ヲ傷メル恐レガアル。

日光ハ殺菌力最モ強イガ光ノ當ル所丈シカ作用セス。吸塵器ハ充分密テナイト却ツテ菌ヲ飛散セシメル。

種々ノ材料ヲ調べて見ルト結核菌ハ木材、衣服類テハ 100 日以上、「リノリウム」上テハ 56 日モ毒力ヲ有ス。ソレ故感染サレタ室ニ他ノ者が住ム場合ハ最後ニモ一回消毒スベキデアル。

(東京市療 馬場抄)

結核菌培養ヨリ發散セル「ガス」様物質ノ結核性變化ニ及ボス影響ニ就テ

Djundiro Sakaki: Experimentelle Untersuchung über den Einfluß der aus Tuberkelbacillenkultur ausgeschiedenen gasförmigen Stoffe auf tuberkulöse Veränderung.

結核菌培養ヨリ「ガス」様ノ物質發生シコノモノヲ吸入セシメタ「モルモット」ハ結核感染ヲ受ケタ場合(注射)對象ニ比シ淋巴腺、肝、脾ノ腫脹ガ遙カニ小サイコノ物質ヲ水ニ濃厚ニ溶シ動物ニ注射シテモ同様ノ結核抑制作用アリ。

(東京市療 馬場抄)

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose. 92. Band. 5. Heft.

1) 心臓及肺ノ機能試験トシテノ「エルゴメトリー」方法

Johannes Hermannsen: Die ergometrische Methode als Funktionsprüfung für Herz und Lunge.

中年ノ健康者ノ「エルゴメトリー」負荷試験テハ呼吸値ノ一定ニナル迄 1300cc. ノ最少酸素消費ヲ示シ少クトモ 20 立ノ殘餘呼吸ヲモツテキル。55 歳以上ノ健康者ハ同條件ノ下ニ於テ 1000cc. ノ酸素ヲ必要トスル。20 立ノ殘餘呼吸ノ最少必要量が保タレテキル。訓練セラレタ人ハ 2 立以下ノ酸素量ヲ示シ非訓練ノ人ヨリ使用サレタ空氣量ハ少イ、從ツテ殘餘呼吸ハ遙ニ大キイ。心臓機能不全ノ人ニ於テハソノ不全ノ程度ニ應ジテ酸素量ハ少ク呼吸數ハ比較的高イ、重症鬱血

肺ヲ除イテハ酸素ノ缺乏ハ存在シナイ、呼吸機能不全ノ人テハ全呼吸ガ制限セラレテ殘餘呼吸ハ非常ニ使用セラレテ酸素缺乏ガ起ツテ來ル。

(東京市療 枝廣抄)

2) 結核性肝臟疾患ト骨髓性白血病性反應トノ症候ニ關スル考察

H. Reinwein und W. Rönig: Beitrag zur Symptomatologie der überkulösen hepato-lienalen Erkrankung und myeloischen Reaktion.

著者ハ骨髓性白血病性反應ヲ呈シタ 2 例ノ結核症ヲ觀察シタガ之ハ造血系統ガ結核ニ強ク犯サレテキテ臨牀上ニハ急性白血病、惡性貧血、「パンシエローゼ」ト思ハレルヤウナ症狀ヲ現ハシテキタテ著者ノ考ヘテ

ハ結核ト「ミエローセ」ノ混合シテキル場合ハ偶然トナスベキデハナク「ミエローイッシュ」ナ反應即チ結核ガ作用シテ起ル症状テアルト考ヘラレル。脾臓及肝臓ガドノ程度一犯サレタ時、ドノ程度ニ「ミエローイッシュ」ナ反應テ起ツテ來クルカハ未ダ全ク明カデハナイガソノ犯サレ方ハ著者ノ觀察及ビ他ノ文獻ニモ肝、脾臓ニ粟粒結核ノアツタコトハ注目スベキコトデアアル。多クノ學者ニヨツテ記載サレタル白血病の血液像ノ減退ハ造血組織ノ疲勞ニヨルモノデアツテ一部ニハ「パンミエローセ」ノ症状ヲ呈スルコトモアル。

(東京市療 枝廣抄)

3) 肋膜滲出液カラ結核菌ヲ培養スル方法

Yosio Tomita: Über die kulturmethoden von Tuberkelbacillen aus Pleuritisexsudat.

- a) 「フィブリン」方法、5ccノ滲出液ヲ無菌的ニ2.5cmノ直徑20cc入ノ「スピリツグラス」ニトリ同量ノ無菌水ト混ジテ振盪シ37°ノ孵卵器ニ入レテオク、24時間スルト結核菌ヲ含シ「フィブリン」ガ雲ノヤウニ出テクル、之ヲ5%ノ硫酸溶液2ccト混ジ5分間放置シソレカラ15分間遠心沈澱ニカケル、コノ沈澱ヲヨクスリツブシテ又孵卵器ニ入レテオク、コレヲ1週間ニワタツテ觀察シ「コロニー」ガ肉眼で見エルヤウニナレバ陽性テコレヲチールホルセン氏方法ヲ染色シテ見ル。
- b) 新ソルゴー氏法5ccノ滲出液ヲ固形卵黃培養ノ試験管ニ入レ滲出液ガ培養基ノ表面ニブタルヤウニ傾ケル、ソシテ孵卵器ノ中ニ垂直ニヌテ、オク、滲出液ト培養基トヲ接觸セシメルヤウニ傾ケルコトヲ1週間續ケル、ソノ度毎ニ試験管内テ繁殖シタ菌ガ培養基ノ上ニクツクコトニナル。
- c) 培養基、コレニハ主トシテ鈴木氏ノGingko培養基トホーンノ「アミノ」培養基ヲ用ヒル。表ニヨツテ新ソルゴー氏方ヨリ著者ノ「フィブリン」方法ガ勝ツテキルト述ベテキル。

東京市療 枝廣抄

4) 副腎皮質ト肺結核

Herbert Trautwein.

副腎「ホルモン」ト「グイタミン」Cトノ混合療法ハ著者ノ研究ニ依ルト色々ノ器官ノ作用ニ好影響ヲ及ボシ、

特ニ結核器官ニ對スル影響ヨリモ個體全體ニ好影響ヲ及ボスモノデアアル。兩物質ハソノ效力上オ互ニ反對ノ立場ニ立ツモノデアリ特ニ V. C-Blutspiegelノ變化ヲ示スモノデアアル。又一般狀態、體重、發熱、血液像、赤血球沈降速度、「マイニケ」反應、肝臟機能等ニ好影響ヲ及ボスモノデアアル。コノ方法ノ應用ハ特ニ結核症ニヨリ障碍セラレタル患者ヤ體質的ニ器官ノ抵抗ノ弱イ人等ニ試ムベキモノデアアル。

(東京市療 枝廣抄)

5) 氣胸療法中ノ合併症トシテノ「フノイモペリカルド」

Ernss Wegemer: Das Pneumopericard als komplikation im Gefolge der Pneumothoraxbehandlung.

氣胸術中ニ「フノイモペリカルド」ノ起ルコトガアルガ非常ニ稀ナコトデアアル。極端ニ心臟ガ左ニ移ツテキルヤウナ場合ハ氣胸針ヲサス場所ハ後下部テ肩胛骨角ノ所又ハ前部テハ「マミラールリニエ」テ鎖骨下部ニヤレバヨイガ他ノ場所テハ危険デアアル。

「フノイモペリカルド」ノ起ツタ時ノ臨牀症狀ハ重苦シキ壓迫感テ之以上空氣ヲ入レテモラハレナイト云フ感じ、僅カノ間續ク虚脱感等デアルガ生命ニ危険ヲ及ボスウナコトハナイ、空氣ハ早ク吸收サレ翌日ニハナクナルモノデアアル。

(東京市療 枝廣抄)

6) 肺結核症ニ於ケル臨牀的經過ト抗體ノ關係

F. Böhm und Vl. Sula: Über die Beziehung zwischen klinischen verlauf und Antikörpertiter bei der Lungentuberkulose.

結核ニ於ケル「マイニツケ」反應ト云フコトガハジメラレテカラソノ診斷的價値ノミナラズ結核病變ノDynamik言葉ヲカヘテ云ヘバ此ノ反應ヲ用ヒテ抗體ノ「チーテル」ヲ追求スルコトニヨリ臨牀上竝ニ豫後判定上ノ結論ヲ得ルコトガ出來ルト云フコトガ云ハレテキル、シカシ我々ノ實驗ノ結論カラ云フト結核ノ色々ノ病變即チ病氣ノDynamikトPotenzハ今用ヒラレテキル方法ニヨツテ得ラレタル抗體ノ「チーテル」トノ關係ニ於テ大多數一致シテキナイト云フコトニナル、臨牀上ヨクナツタ場合ニハ「チーテル」ハ減少シテクルモノデアアル。

(東京市療 枝廣抄)

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose. 92. Band. 6. Heft.

肺臟ノ神經分布ニ關シテ

C. Dijkstra: 445—471. Über die Inervation der

Lungen.

著者ハ先ヅ肺臟神經ノ肉眼の分布ニ關シ記述シ、次テ

著者ノ研究ニヨル組織學的所見ニ就テ 16 葉ノ圖ヲ説明シテキル。

實驗動物トシテ猫ヲ用ヒ、肺臟ノ交感竝ニ副交感兩神經ヲ區別スル爲ニ變性試験(Degenerationsversuch)ヲ採用シ、神經纖維ノ染色ニハ Gros 氏鍍銀法ノ著者變法ヲ使ツテキル。

著者ノ方法ニヨルト 氣管枝筋ノ神經分布ガ綺麗ニ染マリ、筋肉束内ノ知覺終末部(Sensible Endapparat)即 Larsell, Sunder-Plassmann 及 Gaylon ノ所謂 „Nerve muscle Spindles“ ヲ確認シ得タトナシ、尙、迷走神經ヲ頸部テ切り 3 日後試獸ヲ殺シテ神經纖維ノ變性現象ヲ組織學的ニ檢索シ、肺胞ニ知覺神經ガアルト推定ヲ下シテキル。

又神經纖維終末部トソノ周圍ノ組織細胞トノ判別カムツカシイトイフ今迄ノ染色法ノ缺點ガ著者ノ方法ニツテ除去サレタ結果、氣管枝又肺實質ノ運動神經徑路ガヨクソカル、即氣管枝壁及肺胞壁ニ蔓狀ノ神經索ガアリ、之ハ結締織中ヲ走り筋膜及血管ニ達シテキル。ニツノ型ガアリ、ソノ 1 ハ索狀徑路ヲトリナガラ、ソノ經過中ニ細イ網目ヲ造リ、之ガ Periterminale Netzwerk (Boeke) ニヨツテ周圍ノ組織細胞ト結ビイテキテ、之ニヨツテ刺激ガ傳達サレル著者ハコノ型ノ物ハ唯ニ筋ダケテナク、氣管枝壁ノ毛細血管及腺ニモアルト言ツテキル。次ニ第 2 ノ型ハ索狀神經徑路ノ終末部ニアル特殊ナ形ヲシタ多極性細胞(Multipolare Zelle) テアツテ、著者ハ之ヲ間質細胞 „Interstitielle Zelle“ (Lawrentjew) ト呼ビ運動神經ノ終末細胞ト見ナシテキテ、氣管枝筋、毛細血管、肺實質及大キナ肺血管壁ニ證明シ得タト云ツテキル。

又著者ハ迷走神經ヲ切り、ソレニヨツテ起ス氣管枝毛細血管ノ變化ヲ觀テルガ、ソレニヨルト氣管枝毛細血管ハ非常ニ擴張シ、血球テミタサレテ、正常ナ場合ニ比シテ著シイ差ガアリ、ソノ所見カラ考ヘテ、迷走神經内ヲ氣管枝血管ノ收縮神經ガ走ツテル様ニ思ハレルト。

要スルニ肺及氣管枝ノ血管ニ關スル知識ハ未ダ甚ガ貧弱ナルカラ、自律神經系ノ手術ニヨツテ肺疾患ニ影響ヲ與ヘントシタリスル臨牀實驗ヲ行フ迄ニハナツテキナイ。今後ノ解剖學的竝ニ生理學的研究ニ待ツテ初メテナサルベキデアラウト結言シテキル。

(東京市療 高橋抄)

肺臟ノ先天性囊腫疾患ニ就イテ

T. Saglam, Istanbul: 472—482. Über die Kongenitale Cystenkrankheit der Lunge.

先ヅ先進諸家ノ報告ヲ基礎トシテコノ疾患ト年齢トノ關係、症狀、「レントゲン」所見、豫後、治療ヲ施シ次テ著者自身トルコテノ最近經驗例 3 例ヲ報ジテキル。内 2 例ハ剖檢サレテキル。

第 1 例ハ 20 歳♂テ生來著患ナク、入院ノ 2 週間前カラ發熱、咳嗽ヲ伴ヒ風邪氣味テ、1 週後呼吸困難ガ初マリ、入院後 4 日テ死ノ轉歸ヲトツタ例テ、入院時ノ臨牀的所見ハ體溫朝 38°C、夕 38.8°C、脈搏 108、呼吸數 36、テ咳痰、呼吸困難、胸痛ヲ訴ヘ、中等度ノチアノーゼアリ、痰中肺炎菌陽性結核菌陰性。入院 3 日目カラ左頸部—鎖骨下部、腋窩部ニ皮下氣腫ヲ起シ、4 日目ニコノ氣腫ハヨク廣汎トナリ、且右側肋膜試驗穿刺ニヨル漿液性、膿性液モ肺炎菌陽性テアツタ。

以上ノ所見カラ右側肺炎及不全肺炎性肋膜炎及左側肺結核症及自然氣胸ト診斷サレ、翌日死亡、剖檢ノ結果ハ右肺肺炎及膿胸、左肺部分的自然氣胸ヲ發シタ肺囊腫、體壁肋膜—横膈膜間ノ氣腫テアツタ例デアル。肺囊腫ノ大サハ扁豆乃至胡桃大、多發性テアツタ。

第 2 例ハ 36 歳♂ 肉體的過勞後數時間經ツテ肩胛間部ニ痛ヲ感ジ次テ之ガ全胸壁ニ擴ガリ翌日マテ續キ發病 3 日目は「レントゲン」テ自然氣胸及肺囊腫ナルコトガワカツタ例テ約 4 ヶ月後自然氣胸ハ全治シ、X-所見テ鎖骨部カラ第 4 肋骨(前)ノ高サマデニ達シテル大ナル肺囊腫ハ自然氣胸ニヨル何等ノ影響ガナカツタ。特ニコノ患者ハ短距離「ランナー」トシテソノ年マテ何等訴ヘガナカツタ。

第 3 例ハ 42 歳♂テ小兒期カラ咳ガアツタノミテ異常ナク、3 年前カラ痰ガ出始メタガ咯血ハナク、2 年前カラ始ツタ肝硬變ノ病勢惡化ノタメ入院シ、「レントゲン」檢査テ右肺野ノ 3/4 ヲ占メル大ナル囊腫ガワカツタ例テ痰中ニ彈力纖維及結核菌ニ陰性テ、患者ハ惡液質ノタメ死亡、剖檢ノ結果囊腫ハ右上葉全體ヲ占メ内ニ潤濁シ殆シド膿性液ガ見ラレタ。

以上 3 例共氣囊腫(Luftcyste)ニ屬スルモノデアツタ。

(東京市療 高橋抄)

咯血後 49 年經ツテ剖檢ノ結果、咯血個所ガ明カニサレタ 1 例

H. Beitzke: 483—486, Quelle einer Lungenblutung, nach 49 Jahren autoptisch geklärt.

著者ハ先ヅ「青年期ニ肺結核症ニ罹リ、ソノ後生涯ノ

大部ヲコノ疾病ノ究明ニ獻ゲタ尊敬スベキ一同僚ノ臨終ノ牀テノ願ヒテ下記ノ報告ニヨツテ果ノト頭書シテ一剖檢例ヲ報ジテキル。

最初ニ家族歴テ 4 人ノ兄弟姉妹ハ 1870—1878 年ノ間ニ相繼イテ結核症ニ罹リ(年齢ハ 18—24 歳間)其ノ内 3 人ハ死亡シ、妹 1 人ヲケガ治ツタ。患者ハ早クカラ家ヲ離レテ生活シテ 26 歳ノ時即チ 1889 年ニ肺結核症ニナツタ。

疾病ハ相繼ゲ 2 回ノ相當量ノ咯血ヲ始マリ、熱ヲ伴ヒ當時ハ痰中ニ結核菌陽性デアツタ。

ソノ後轉地シテ滋養安靜療法 2 ヶ年ノ後全治シ、醫官及結核病研究者トシテ仕事ニ従事シテキタガ 66—7 歳マデハ登山モヤリ、「スキー」モヤツテキタ位デアアル。

74 歳時心臟瓣膜不全症テ死亡シタ(1937 年 1 月)。

剖檢所見ハ大動脈瓣膜ノ石灰沈著ニヨル大動脈狹窄左心室ノ強度ナ肥大、全身血管ノ硬化症テ、肺所見トシテハ兩側肋膜全面ノ癒著ガアリ、左肺炎ニ櫻實大、石板様、硬イ病竈ガアリ、内ニヌツブリ粟粒大ノ石灰竈ヲ見、Hintere aufsteigende Spitzenbronchus ガコノ石灰竈ニ至リ終ツテキル。

右肺外側下部 1—2 mm 厚サノ肝臓形成、肺尖部ニ小竈

豆大、石板様、硬イ病竈が見ラレタ。

組織學的所見ニヨルト、左肺炎部ニ病竈ハソノ大部分ガ攣縮性硬化カラナツテキル、壞死ニ陥ツタ、石灰化シタ部ニハ尙明カニ所々彈力纖維ガ肺胞ノ造構ヲ示シテキル。ソノ外側ニハ狭イ海綿狀ノ骨梁が見ラレ、最外側ニ癩痕様結締織ニヨル胞囊が見ラレ、前記氣管ハコノ胞囊ニヨツテ閉鎖サレテキル。コノ氣管ト病竈間ノ角ニ肺動脈枝ガアリ、ソノ内膜ハ肥厚シ、上記病竈側テ中膜ノ彈力纖維ガ一部切レテコノ斷裂部ノ端ハ上記病竈ノ胞囊ニ接シテ、結締織内ニ終ツテキル。即以上ノ所見カラ上記粟粒大ノ石灰化竈ハ初感染竈デアツテ、嘗テ 49 年前ソノ一部ガ融解シ、近接シテキル血管壁ガ破レテ咯血ガ起キ、ソノ後血栓ガ出來テ癩痕ヲ形成シタモノト想定シ得ルト。

即コノ例ノ興味アル點ハ第 1 ニ空洞ニナラナイ初感染竈カラ出血シタ例ハ未ダ報告ニ接シテキナイコト、第 2 ニコノ患者ガ結核家族出デアリナカラ適當ナ時期ニ家族カラ離レテ生活シタタメ小兒期ニハ感染セズニ 26 歳テ初メテ感染シ、直チニ適當ナ療法ヲナシタタメ全治シ得タコトデアアル。

(東京市療 高橋抄)

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose 92. Band. 8. Heft. 1939.

妊娠、分娩、産褥ガ結核ノ經過ニ及ボス影響ニ就テ H. I. Koake:

著者ハ最初一長年ニ亙ツテ論議サレテキル上記題目ノ問題ガ今日尙歸スル所ヲ知ラナイ現状ヲ示シ、妊娠ハ生理的ナル現象ニシテ肺病變ニハ不幸ナル影響ヲ與ヘズトスル説ト、臨牀ノ觀察ニ基イテ兩者ヲ互ニ分離スル事ガ出來ナイト云フ説ニ對シ從來ヨリモヨリ多クノ例症ヲ捉ヘテ各専門家カラ充分顧慮サレネバナラスト云ツテキル。殊ニ妊娠ガ墮胎ノ適應症ナルヤ否ヤハ重大ナル問題デアルト述べ、著者自ラ Tönsheide ニテ取扱ヒタル 50 例ノ結核婦人ノ分娩中 13 例ヲ擧ゲテ、先ニ發表サレタ諸家ノ結果ニ反シテ異様ニ多クノ惡影響ヲ及ボシタ點ヲ紹介セントシテキル。

コノ中 11 例ハ分娩ニ續イテ直チニ以前鎮ツテキタ肺結核ガ非常ニ増悪シ 9 例ハ死亡シテキル。13 例中 8 例ハ前以テ肺結核ガナル事ガ證明サレテキタガ最初カラ姑息的ニ扱ハネバナラス場合ガ多カツタ。

積極的療法トシテハ分娩ノ始マル 14 日前ニ豫防的ニ氣胸術ガ行ハレタガ及バズシテ死亡シタノガ 1 例、分娩後胸廓成形術ガ行ハレタノガ 1 例、分娩前ヨリ氣胸術ヲ行ヒツ、無事分娩産褥ヲ經過セルモノノ 1 例ガ報告サレ、尙後日様々胸廓外科ガ期待サレテキル。著者ハ又若シ分娩ノ始マル前、充分ニ長ク氣胸術ヲ施行スルコトガ出來タカラバ他ト一致シタ經驗ヲ得タデアラウシ、上述ノ肺所見ハ妊娠ヲ伴ハナイ場合モ鬼籍ニ入ルコトモ考ヘラルル事デアリ、大切ナ事ハ早ク結核妊娠ヲ捉ヘルコトデアルト云ツテキル。

(東京市療 上田抄)

不完全氣胸術ニ於ケル廣範圍癒著ノ胸廓内剝離法
(胸廓内肺臟剝離法)

Günther Herholz:

氣胸術ガ完全ニ行ハレテキナイ時、胸廓内癒著剝離ガ行ハレルガ、Jakobaeus 及ビ Unverricht ハ小指頭大以上ノ癒著ハ手術カラ除外シテキタ。次第ニ熟練シ經驗ガ増スト併ニ廣範圍ヲ膜様ノ癒著モノノ適應ノ

範圍ニ加ヘラレテ來タガ最近 Maurer ハ肋膜外肺臟剝離ノ方法テ廣範ナ癒著ヲ取除ク經驗ヲシタ。著者モ亦肺ノ鈍性剝離ヲ伴フ肋膜外燒灼剝離法ヲ多數經驗シ、コ、ニハ凡テ「レントゲン」像テハ手術不可能ト思ハレタモノガ成功セル6例ヲ術前術、後「レントゲン」像ト共ニ上ゲテキル。ソノ剝離面ハ手掌ノ2倍大ニ及ブモノアリ、前後7時間ヲ要セルモノアリ、5%ハ剝離牀カラ少量ノ出血ガアツタガ肺ノ損傷ハ1例モナク、只普通ノ燒灼法ヨリモ滲出液ノ滯留ガアリ、吸收後モ廣範ノ肋膜ノ肥厚ヲ來ス事ガ多イタメニ後ニ氣胸乃至ハ油胸ヲ施行シタ。ソノ數ハ20%。

(東京市療 土田抄)

ベック氏疾患ノ臨牀ト病理

Alfred Bergmann:

著者ハベック氏病ハ凡テノ器官ニ發生スル非定型的ノ結核デアルガ、最初ニ皮膚ガ犯サレ、肺ハ多クハ自覺症ヲ缺如スルタメ皮膚科醫ダケニ知ラレテキル場合ガ少カラズアル事ヲ指摘シ、皮膚ノベック氏病ヲ發見シタ時ハ、症狀ノ有無ニ拘ラズ必ズ胸部ノレントゲン診査ノ必要ヲ強調シテキル。

コ、ニ相次イテ同病ニ罹患セル兄妹ノ臨牀ヲ詳細ニ、且ツ前者ノ剖檢竝ニ組織所見ヲ述ベテ體質ノ問題ニ言及シテキル。

先ヅ兄ノ症狀ハ關節ノ腫脹ト膿炎ノ疑ヲ以テ始リ、胸部ハ正常ノ理學的所見ヲ呈シテキルニ拘ラズ粟粒性血行性肺結核ヲ思ハセル「レントゲン」所見ハ長イ間停止性ノ經過ヲトリ、經過中ニ結核疾患、皮膚ノベック氏病及ビ結核性皮膚膿瘍ヲ生ジ、右心ノ機能障礙ノタメニ死ノ轉歸ヲトツタ。

ソノ間痰ノ喀出ハ稀テ結核菌ハ常ニ陰性、マントー氏反應ハ人型菌テ陰性、血沈ハ少シク速進シ體温ハ低ク肥胖症テ體重ノ増加著明、胃腸症狀ハ缺如シテキタ。經過6年、21歳ヨリ27歳ニ及ブ。

妹ハマントー氏反應人型菌ニテ弱陽性、本態不明ノ皮膚發疹アリ、喀痰ハ稀テ、咳嗽ハ缺如シ胞部ハ理學的所見ハ正常ナルモレントゲン像ハ血行性粟粒肺結核ノ像ヲ呈ス。呼吸困難ヲ訴ヘ、脾腫、淋巴腺腫脹、關節痛ヲ伴ヒ之又肥胖症ガ著シイ。發病19歳、1938年ニテ25歳ニ及ブ。

診斷上必要ノ條件ハ淋巴腺ノ増大、マントー氏反應陰性、慢性ノ經過等デアルガ又重要ノ助トシテ「レントゲン」像ガ上ゲラレル。豫後ハ良好デアツテ數年乃至

20年マテ及ブ事ガアル。

病理解剖組織學的ニハ結締織増殖ノ傾向、硝子性硬化ガ最モ目立ツテキル。肺及ビ肺門竝ニ腹腔内ノ凡テノ淋巴腺ニハ硝子性硬化ト乾酪變性ノナイ上皮様細胞結節ガアツタ。同様ノ所見ガ皮膚、脾臟及ビ肝臟ニモアツタガ、副腎ニハ乾酪變性ヲモ同時ニ伴ツテキタ。腸ニハ治癒シタ結核性潰瘍ガ見ラレタ。肺及ビ淋巴腺ノ組織培養ニテ牛型菌ヲ得タ。

(東京市療 土田抄)

健康相談所ニ於ケル「レントゲン」診査

Theodor Zivanovic:

著者ガ長年健康相談所ニ於テ經驗シタ斷片ヲ述ベテキル。先ヅ肺尖部ガ明ルクテ廣イト云フ様ナ場合ニ一側或ハ兩側ノ肺門陰影ガ増大シテキル事ヲ屢々見受ケルガ之ハ機械的ノモノカ炎症性ノモノカ、又後者ハ結核性ノモノカ急性ノ傾向ヲモツモノデアルカヲ判定セネバナラス。結核性ノ場合ハ形、幅、陰影ノ濃サ又擴ガリ方等ニヨツテ區別サレル、ビルケ氏反應ハ成人ノ場合ハ解決ノ鍵トハナラス。

更ニ「レントゲンフィルム」ヲ讀ム場合ニ病竈ガ閉鎖性デアル時ハ周圍カラ著シク目立ち、ソノ移行像ハ明瞭ニ區別サレテ狭ク鮮明デアルニ反シ、進行性ノ場合ハ暗ク不鮮明テ軟イ。

集團検査ニ於テハ胸部ノ聽打診ノテナク「レントゲン」検査ヲ根柢トシナケレバ不充分デアルト云ヒ、コノ際「レントゲン」所見ニヨツテ次ノ様ニ分類シテ診療上ノ便ニ供シテキル。

A) 纖維素性病變

- 1) 周邊性: 肺尖部、肺門部、肋膜癒著
- 2) 内部性: 下行性纖維素性肺病變、放射線肺門部病變

B) 浸潤性病變

- 1) 新鮮性
- 2) 陳舊性

次ニ喀痰中ノ結核菌ハ初メハ「アンチフォルミン」法ヲ用ヒテキタガ後ニハ新シク喀痰セシメテ6回マテ新シイ標本ヲ作ラセ、又市内ノ患者ハ早朝ノ喀痰ヲ持參セシメテ陽性所見ヲ得タ。該所ニ於ケル陽性率ハ年々増加シテ16年前ハ12.7%ナリシモノガ1938年度ハ、23.3%ニナツテキル。

又結核菌ガ陽性デアリ乍ラ繰リ返ヘシ行フ「レントゲン」透視ニ病竈ノ發見出來ナカツタモノ、又非常ニ輕

症ヲ纖維素性ノ病變ノアル場合ニ赤染サレタ桿菌ヲ見出シタガ、後繰リ返ヘシ検査スルモ陰性ニ終ツタ例ヲ報告シテキル、最後ニ健康相談所及ビ現在屢々行ハレル集團検査ノタメニ臨牀的ニ充分價値アル、而モ速カニ決定的ナ手段方法ヲ望ミソノタメニハ、各々が廣イ臨牀ニ通ズル夫々ノ道ヲ歩マネバナラナイト結ンデキル。

(東京市療 土田抄)

膿胸ヲ思ハシメシ肋膜内被細胞腫ノ1例

F. Böhm und L. Sula:

稀ニシテ診断ノ困難ナ肋膜内被細胞腫ノ臨牀、解剖及組織所見ノ報告デアル。

先ヅ臨牀症狀トシテ呼吸困難ガ現ハレ假ニ強クナツテ來タ。次ニ右側ノ肋膜ニ出血性膿汁ノ滲出物が滲溜シ最初ハ腫瘍特異性ヲモツテキナカツタガ、死前6時間ノ穿刺液ハ惡臭ヲ帶ビタ出血性ノ膿汁デアツタ。患者ハ22年前ニ同側ノ滲出性ノ肋膜炎ヲ經過シテキルガ爾後健康デアツタ。

解剖テハ右側ノ肋膜腫瘍ト左側上葉ノブール氏病竈ト診断サレ、組織學的ニハ血管周圍ニ於ケル細胞ノ車軸樣集團及ビ多クノ核分裂ヲ伴フ小圓形細胞性變態發育性惡性腫瘍デアリ、壞死部分ガ殊ニ肺胸膜ニ著明デアツタ。

上記症狀ハ5ヶ月繼續シ他ノ報告例ハ2—3ヶ月カラ1—2年デアル。

(東京市療 土田抄)

結核兒童ノ體格及ビソノ病態トノ關係

Annemarie Potthoff:

著者ハ、結核兒ト健康兒ノ體ノ大サノ比較、竝ニ結

核兒ノ體格ト疾病ノ經過トノ關係ヲ知ラント欲シテ、Aprath 及ビ Düsseldorf-Grafenberg ノ小兒療養所テ1935—1936年ノ間ノ2歳カラ15歳迄ノ結核兒441名ヲMartinノ方法ヲ計測シ同時ニ病狀ハ「レントゲン」ト臨牀的トニ診査シテ次ノ如キ結果ヲ得タ。

- 1、結核兒ノ身長ノ發育ハ特ニ亢進シテキナイテ却テ最近ノ健康兒ト比較スルト男兒テハ5歳テ、女兒テハ6歳テ劣ツテキル。
- 2、體重ハ2—4歳テハ少ク、5—15歳テハ正常カ或ハ重イ。
- 3、胸廓及ビソノ指標ハ

$$\text{Brustschulter-Index} \left(\frac{\text{肩幅} \times 100}{\text{胸圍}} \right)$$

ノ他ハ正常デアル。2—11歳ハ細身型體格テ13—15歳ハ健康兒ノ指標ヨリモ軀幹強大體格性デアル。

- 4、身長ノ肩幅トノ關係ハ健康兒ト同様デアツタ。
- 5、體格ヲ調ベルト3分ノ2ハ「Mesosom」テ後ノ大部分ハ「Leptosom」テ「EurySom」ハ最少カツタ。病態ト體格トノ關係ハ結核原病竈テハ2—6歳テ「Leptosom」ガ多ク、他ハ「EurySom」ガ多カツタ。第2期テハ「Leptosom」及ビ「EurySom」ガ多ク、之ハ肺門結核テハ少ナカツタ。7—10歳テハ逆デアツタ。然シ第1期ト第2期テハ特ニ3分ノ2ヲ占メル、「Mesosom」ノ他ノ體型ノ事ハハツキリ云ヘナイ。第3期テハ「Leptosom」及ビ「EurySom」ガ多カツタ。青春期結核ノ子供ハLeptosomトEurySomデアツタ。

(東京市療 土田抄)

會報並ニ雜報

1月中新入會者

- 川上四之助 奉天市滿鐵鐵道總局人事局保健課
- 阿部憲正 朝鮮總督府警務局衛生課細菌検査所
- 小堀進 東京市神田區司町一ノ一一
- 坂田春男 東京市淀橋區上落合一ノ五一四
- 島田町診療所 靜岡縣志太郡島田町
- 金子麟 大連市山吹町一一四番地
- 大阪女子高等醫學專門學校圖書室 大阪府北河内郡枚方町字坂

- 細谷玄太郎 千葉市外千城村千城園内官舎二號
- 佐藤智男 福岡市柳原三ノ七七九
- 天川誠 滋賀縣入幡町新町二丁目
- 菅能騰一 軍艦殿島軍醫大尉
- 京都府立西ノ京健康相談所 京都市中京區西ノ京左馬寮町二八
- 平野美佐雄 名古屋市東區東片端町二ノ五
- 益子義教 東京市芝區白金臺町公衆衛生院疫學部
- 大阪女子高等醫學專門學校附屬病院內科教室 大阪

府北河内郡守口町文園町二三九
 李 奉 恩 朝鮮慶南晋州府培敦病院内科
 日本赤十字社廣島支部病院 廣島市千田町一丁目四
 九〇ノ一
 井 坂 吉 二 新潟市新潟醫科大學皮膚科教室
 浦 上 達 也 京都府立百萬遍健康相談所
 家 森 武 夫 京都帝國大學病理學教室
 生 井 浩 福岡市平尾一本木一九〇

橋 本 美 智 雄 鞍山市滿鐵鞍山醫院
 玉 井 榮 大連市回春街一一大連醫院分院同
 濟醫院内科
 奥 田 喜 久 三 東京市半込區矢來町三三
 小野寺内科圖書室 福岡市九州帝國大學醫學部

評議員ノ訃

上田春治郎氏 本會評議員ノ氏ハ此程死去セラル、
 謹ミテ弔意ヲ表ス。